

第3号様式

平成21年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A3	取組 名称	人と自然の共生の理念と新たな社会・経済的なしくみに関する研究 —京都からの伝統を生かした暮らしの知恵による温暖化対策への提案—
研究代表者:		公共政策学部 (研究科)	教授 青山公三
研究担当者:		京都府立大学 生命環境科学研究科	教授 田中和博、教授 松原斎樹
外部分担者:		京都府立大学 公共政策学研究科	教授 小沢修司、教授 築山 崇、准教授 川勝健志
研究協力者:		京都府文化環境部地球温暖化対策課	課長 奥谷三穂、副課長 松田克也
		京都大学大学院	教授 植田和弘
		総合地球環境学研究所	阿部健一
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)			
京都府文化環境部地球温暖化対策課			
【研究活動の要約】			
研究活動は下記のような内容で進められた。			
① 研究チーム会議 4回開催			
② モデルフォレスト現地調査 (福知山市大江町毛原、南丹市美山町宮脇、亀岡市宮前町神前の調査)			
③ 森林環境税や水資源税に関する文献調査、及び愛媛県西条市における事例調査			
④ 米国における都市と森林地域との連携による自然保全に関する海外調査 (NY州、NJ州)			
⑤ 京都環境文化学術フォーラムの開催協力と第3セッションの企画、運営、報告			
【研究活動の成果】			
本研究チームの最も重要な活動目標は、京都府立大学及び京都府と京都大学、総合地球環境学研究所との協働で実施した「京都環境文化学術フォーラム」において研究成果を報告することであった。京都府立大学はフォーラムの第3セッションの企画、運営、報告などを分担し、本研究成果の一部を報告した。第3セッションのテーマは『Cooperation Systems with Urban and Rural Communities from Kyoto』—都市と農山村の協力システムの構築:モデルフォレスト運動から京文化を生かした住まい方まで—とし、特に京都府が全国に先駆けてのモデルフォレスト運動に関連しての研究報告を中心に行った。またモデルフォレストに関係する研究として、フォーラムでの報告は行わなかったが、地域環境税についての研究や、米国での自然保護のための開発権の移転などの研究も行った。			
【研究成果の還元】			
平成22年2月13日の京都環境文化学術フォーラム セッションⅢにおいて京都府立大学の地域環境チームのメンバーが下記の議論を展開した。参加者約100名 於:京都国際会館			
<セッションⅢ> 15:20~17:00			
コーディネーター:青山公三 京都府立大学 公共政策学部教授			
テーマ:『Cooperation Systems with Urban and Rural Communities from Kyoto』 —都市と農山村の協力システムの構築:モデルフォレスト運動から京文化を生かした住まい方まで—			
キーノートスピーチ:小澤 普照 元林野庁長官 「モデルフォレスト:モデルフォレスト運動の状況と未来」			
討論:田中 和博 京都府立大学 生命環境科学研究科 教授 「京都におけるモデルフォレスト運動の課題と展望」			
討論:松原 斎樹 京都府立大学 生命環境科学研究科 教授 「自然を五感で感じる昔ながらの暮らし方の現代的意義」			
フォーラム セッションⅢの報告議事録、報告スライド等については下記問合せ先にて閲覧可能			
【お問い合わせ先】		公共政策学部 都市及び地域環境政策研究室	教授 :青山 公三
Tel: 075-703-5903		E-mail: k-aoyama@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

亀岡市宮前町神前のモデルフォレスト

都市の企業従業員が間伐や下草刈りなどの作業実施



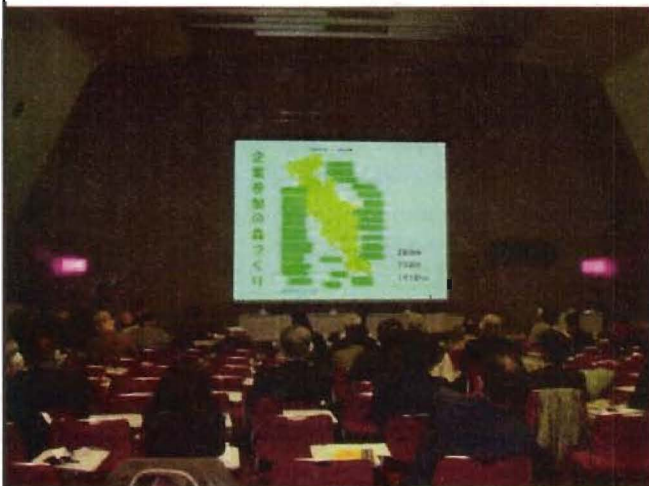
福知山市大江町毛原のモデルフォレスト

荒れ果てた地域の共有林を都市の企業従業員が再生



京都環境文化学術フォーラム(田中和博の報告)

京都のモデルフォレスト運動の現状と課題を報告



京都環境文化学術フォーラム(松原斎樹の報告)

建築住宅分野における温暖化対策を報告（京町屋の事例等）



京都環境文化学術フォーラムの全体討論における 質疑応答

（壇上左から報告者の松原教授、田中教授、小澤元林野庁長官、コーディネーターの青山教授）